



行政視察内容報告書

令和 2年12月11日

土佐清水市議会

副議長 作田喜秋 様

(提出者) 会派名 新風会

氏名 永野裕夫



下記のとおり報告します。

項目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察	<input type="checkbox"/> 要請・陳情関係
	<input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input type="checkbox"/> 会議への参加	<input type="checkbox"/> その他 ()
参加者	弘田 条・細川博史・山崎誠一・永野裕夫		
	計 4 人		
期日	令和 2 年 1 1 月 5 日 ~ 令和 2 年 1 1 月 6 日		

【概要】(年月日・場所・内容)

日時 令和2年11月5日

場所 荒川電工テクニカルセンター

内容

今ノ山風力発電について環境アセスメントの内容について学習した。

今後計画している発電の規模や進捗状況について説明を受けた。

日時 令和2年11月6日

場所 梶原町役場・町直営風力発電設置場所(四国カルスト)

内容

梶原町環境整備課を訪問し直営の風力発電についての学習

自然エネルギーによる梶原町が目指す自然エネルギーの活用による町づくりの調査

■今の山風力発電について

現在、今ノ山において風力発電の計画が惹起されているが今後の計画について2社の中の1社日立サステナブルエナジーから説明を受けた。



今回の説明は以下のとおりである。まずは、事業規模であるが最大出力 38,000KW で最大 9 基を三原、土佐清水に設置予定。発電機の 1 基の概要は最大出力 4,200KW、羽の枚数 3 枚、直径 115.7m 高さ 149m で設置場所の面積は 17m×17m であるということであった。気になる騒音であるが特に超低周波については 20Hz で人間には聞こえない音であり、環境アセスメントは行わなくていいということで、人体には影響しないということでした。



次に生態系について調査は行っているのかという質問については非常に丁寧な説明を受けた。特に生態系の自然破壊をしないように、専門家を動員して特に猛禽類の生息環境を破壊することなく建設予定地を移動するなど現況調査を徹底したとの報告を受けた。



◎総括

国も 2050 年には温室効果ゼロを宣言する中、今後日本においてのエネルギー事業がずいぶん様変わりすると考える。再生エネルギーについての活用は次世代のテーマである、となれば再生可能エネルギーをうまく付き合うことが課題である。今後においては企業の営利目的のための事業にすることなく将来において風力発電については新エネルギーとして慎重な見解が必要と改めて学習した。

■梶原視察研修

梶原町は人口 3,608 人（高齢化率 42.3%）の小さな町であるがこの町の取り組みである自然エネルギーの活用の町づくりについて学習した、自然エネルギーの再生は高知県一であり、いち早く風力と観光の町として平成 11 年に四国カルストに 2 基の（発電能力は 600KW×2）デンマーク製を設置し風車の町とし観光にも効果があると説明を受けた。そのことをきっかけに自然エネルギーの町づくりをスタートし現在では風の風力発電、光の太陽光発電、水の水力発電ちなみに梶原の商店街のクリスマスツリーLED は水力発電で対応して経費はいらぬということである。そして森林の町である木質ペレット燃料などまさに 2050 年の温室効果ゼロのモデル町であると感心をした。



特に今回の研修の中で基金の説明を聞きました。いわゆる循環型環境基金、余剰エネルギーを売電して町おこしを考える、産業が乏しい中山間において自然エネルギーを財源として独自の自主財源を確保する取り組みは非常に興味がありました。



梶原環境基金の仕組みの説明

■総括

梶原町を研修して自然エネルギーの無限の可能性をまざまざと突き付けられ、梶原職員のひたむきなエネルギーに対する将来ビジョンに夢を見させていただきました。今回の研修は自然エネルギーの活用について役所での学習でしたが、その研修中にこのコロナ禍においても役所駐車場に大型バスが何台か駐車してあるので聞くと新国立競技場をデザインした隈研吾氏のデザインした建物がなんと6か所もあるということで、観光産業も大いににぎわっていました。他にも自慢するものがたくさんあるということで、今度は観光についての取り組みも研修したいです。

